

浜通り平坦地における牧草の春期播種時の留意点

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 牧草の春期播種及び放射性セシウム吸収抑制技術の実証(浪江町)

担当者名 柳田和弘

I 実証技術の解説

1 要旨

除草等による保安全管理を行っていた浪江町（平坦地）の除染後農地では、春期播種による永年生牧草（フェストロリウム及びオーチャードグラス）の定着は困難であった。浜通り平坦地において牧草を春期に播種する場合は、イタリアンライグラス等の単年生牧草とし、永年生牧草は秋期に播種するのが望ましい。

- (1) 4月2日に播種した場合、単年生牧草のイタリアンライグラスは232kg/10aの乾物収量が得られた（表1）。
- (2) 永年生牧草のフェストロリウム及びオーチャードグラスは十分な収量が得られず、フェストロリウムの雑草率は87%と高く、定着がみられなかった（表1）。
- (3) オーチャードグラスについては、定着を促すため、掃除刈り及び選択性除草剤（チフェンスルフロンメチル）処理を行ったが、2番草収穫時にイネ科雑草が繁茂し、雑草率は96%となり、定着はみられなかった（表2）。

2 期待される効果

- (1) 除草等による保安全管理を行っていた除染後農地における牧草栽培の参考資料となる。

3 活用上の留意点

- (1) 本実証は、浪江町平坦地（標高約60m）、年平均気温12.3℃、年間降水量1,511mmの条件で栽培した結果である。なお、2018年の4月の平均気温及び降水量は13.4℃（平年差+3.0℃）、61.5mm（平年比48%）（浪江アメダス観測値）であった。
- (2) 供試品種は、イタリアンライグラス「マンモスB」、フェストロリウム「那系1号」、オーチャードグラス「ナツミドリ」である。

II 具体的データ等

表1 牧草(1番草)の収量と雑草率^{注)}

草種	乾物収量(kg/10a)	雑草率(%)
イタリアンライグラス	232	29
フェストロリウム	21	87
オーチャードグラス	92	58

注) 収穫調査時の雑草生重比率

※ 耕種概要

- ・ 除草剤散布：グリホサートカリウム塩 200ml/10a (2018年2月27日実施)
- ・ 播種：散播、3kg/10a (2018年4月2日実施)
- ・ 収穫調査：コドラート法 (2018年6月7日実施)

表2 掃除刈り及び選択性除草剤処理による牧草(オーチャードグラス)収量と雑草率^{注)}

区	1番草		2番草	
	乾物収量(kg/10a)	雑草率(%)	乾物収量(kg/10a)	雑草率(%)
掃除刈り	137	75	18	96
掃除刈り+選択性除草剤処理	243	50	17	96

注) 収穫調査時の雑草生重比率

※ 耕種概要

- ・ 掃除刈り：刈高約 15cm、ほ場外持ち出し(2018年6月4日実施)
- ・ 選択性除草剤処理：チフェンスルフロンメチル 1g/10a(2018年6月14日実施(掃除刈り後))
チフェンスルフロンメチル 5g/10a(2018年7月25日実施(1番草収穫後))
- ・ 収穫調査：コドラート法 (1番草：2018年7月5日実施、2番草：2018年8月17日実施)

III その他

1 執筆者

柳田和弘

2 実施期間

平成 30 年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

- (1) 「春期牧草播種技術と秋の追播による植生改善技術」(平成 27 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書)